

連合後援会だより

1年間、おつかれさまでした

連合後援会代表から後援会のみなさまへ
この1年を振り返って
ポストン交流 ウェルカムパーティ
編集委員会から ~いっしょにどうですか?~

目次:

- 「1年間のご協力に笑顔で感謝」
連合後援会代表から 1
- この1年を振り返って
副会長からみなさんへ 2
- ポストン交流
ウェルカムパーティ 3
- 編集委員会への誘い
どうぞ一緒に! 4

ニュースコーナー

ゆーあいセンターの直営喫茶店がオープン!
4月2日に東小学校協会の交差点角、中華楽園の2Fに福祉喫茶「ゆー&あい」がオープンいたします。
開店時間は11:00~18:00
香り高いコーヒー、紅茶はおかわりありで¥250。お手ごろ価格の軽食もいろいろ用意してあります。
また、喫茶の他にも、手作りのミニショップも常設の予定です。
大きな窓から小学校を臨む店内のテーブルと椅子は学園からの応援で、かつて青梅山荘で使っていたものを使用。
座席数は20席。
懇談会や後援会活動の帰りにちよっと一休みしてみませんか?
連絡先:0422-53-0545

21世紀へ向けて ~理想の塔の礎に~

西暦も2000年に改まり、21世紀という言葉が持つパワーがまたひとまわり小さくなりました。「世紀末」という言葉の暗いイメージを嫌った日本経済は「ミレニアム」(千年紀)という言葉をもてはやしてありますが、おかげでこの「21世紀」は意慮の奥にしまわれた感があります。
表題に、あえて21世紀へ向けてといたしましたのは、後援会の歴史を鑑みたらに他なりません。私達の先輩が東学園の後援会を設立した頃に描いた「21世紀」の東学園、それは理想の学園を具現化したものであったに違いありません。みなさんと活動をしたこの1年もいつの日か歴史になることでしょう。今回は先輩から後輩へのバトンタッチをテーマに、この1年間を振り返って、お疲れ様でした特集号です。

史を鑑みたらに他なりません。私達の先輩が東学園の後援会を設立した頃に描いた「21世紀」の東学園、それは理想の学園を具現化したものであったに違いありません。みなさんと活動をしたこの1年もいつの日か歴史になることでしょう。今回は先輩から後輩へのバトンタッチをテーマに、この1年間を振り返って、お疲れ様でした特集号です。

この1年間、連合後援会の世話役として、いろいろな場面でリーダーシップを発揮して下さりました、小学校後援会の高橋会長から、連合後援会を代表して、みなさまへのご挨拶です。
高橋会長、1年間、ありがとうございました。

1年間のご協力に笑顔で感謝

北風が春の訪れとともに和らぎ、胸を熱くする卒業シーズンが近づきました。
後援会の皆様にはこの1年間ご協力をいただき、ここに深く感謝申し上げます。
私たち後援会は子供たちが楽しい学園生活を過ごしていけるようバックアップするための会です。
今年度、私たち各園校の会長は「笑顔と笑いで楽しく」をモットーにしました。
これは私が日頃の子供たちから教えられたものです。
笑顔が人を引き寄せ輪となる

小学校後援会会長 高橋 信一
ように、親としても日頃の忙しさに流されないで、毎日を笑顔で過ごしたいですね。
子供たちの笑顔は親としての喜びであり、その成長は何物にも変え難く、卒業は新たな人生のスタートですから、笑顔で祝福したいものです。
この1年間後援会活動にご理解ご協力をいただいた皆様に感謝し、メッセージを贈ります。
『悩みも迷いも苦しみも、笑顔ひとつで頑張れる』
ありがとうございました。

この1年間、後援会活動の最前線と一緒に汗を流し、お母様方のリーダーとして私達を引っ張ってつづけてくれた各園校の副会長に、卒業を前に寄稿をお願い致しました。
みなさん、卒業準備委員会で忙しい中にも拘わらず、編集委員会からの原稿依頼を快く(案のところは勘弁してくださいの声も多かったのですが)引き受けて下さいました。
後援会活動を頑張ってくれた方々だけに、ごなにも「後援会の卒業」という気持ちで強く、熱いメッセージをお寄せ下さいました。副会長の皆さん、お疲れ様でした!

ありがとうございました!

幼稚園副会長 萩山 恵子
多くの方々とお会いするチャンスに頂いたこと、また、私自身の活動の場を広がられたことなど、本当にありがとうございました。
そして、先輩から受け継いだことを次の方へ橋渡しするお手伝いが、私にも少しはできたのかなと...
子供と一緒に私も先生方からパワーをもらっていたんですね。
本当に楽しかったです。
また遊びに来ます。



活動を通してたくさん触れることができました。
振り返ると楽しい思い出ばかり、後援会の皆様、東学園の教職員の皆様、お世話になりました。そしてありがとうございました。

学園生活最後を振り返って

中学校副会長 中丸 英子
東学園に長男がお世話になってからひと昔ならぬ、ふた昔近い年月を重ねたことになりました。
3度目の中学校卒業式を目前にして走馬灯のように様々なことが頭をよぎります。
今想えば幼、小、中と各園舎に子供たちが通っていた時期が忙しい中にも充実した毎日を送っていたような気がします。
子供たちを取り巻く環境はひと昔前には考えられないような事件が多くなり、親として不安を抱かざるを得ません。我が子がこの様な時代だからこそ親と学校がしっかりと手を組んで子どもを温かく見守り、心身ともに健康に育てていくことが必要だと思っております。
後援会活動に於いては、役員委員のお母様方の力強いご支援の下、楽しく円滑に過ごすことが出来ました。
今年の活動が来年、再来年への掛け橋になれば幸いです。
最後になりますが諸先生方の熱意あるご指導に心より感謝申し上げますと共に武蔵野東学園の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

はやかったこの1年
高等専修学校副会長 真船 千恵子
この1年間を振り返ってみますと、3年間の中で一番早い1年だったのではないかと思います。
子供が幼稚園の年長からお世話になり、13年目。お世話になった分、少しでもお返しできればと、お引き受けしたつもりでしたが、お役に立てず申し訳ない気持ちで一杯です。
活動は主に学園祭が中心でしたが、とにかくよく動いてくださった先生方と、細部にまで気を配って動いてくださった役員の方々に感謝しております。現在は卒対も大詰め、滞りなく最後の幕を降ろしたいと思います。



娘と共に卒業いたします
むらさき会副会長 島田 津子
今年度のむらさき会の活動も無事終了し、学園のご支援に心から御礼申し上げます。微力ながら会のお手伝いができましたことを嬉しく思います。
13年前、娘の小さな手を握り、ラッシュの山手線に乗り通した日々が思い出されます。そして今、卒業する春を迎え、学園の先生方の熱意あるご指導や、優しい先輩方、支えてくれた友達、頼りになる後援会、そして私達を理解し見守って下さった後援会の方々に感謝し、娘と共に卒業致します。

'99ポストン交流 ウェルカムパーティ報告



2月18日、ポストンからのお客様を迎えて、本館の談話室でウェルカムパーティが行われました。
ポストン側からは、ガーランド理事長ご夫妻、ファンテジヤ校長、ポストン親の会イギリス支部長のマレーさん、卒業生の母親で、この夏にホームステイで、東京の子供たちを迎え入れて下さいましたディキヤストロさん、ポストン東スクール会計コントローラのケリーさん、同人事務長のダウニーさん、同事務長の鈴木先生。
学園からは野田学園長をはじめとした各園校の校長、副校長などの先生方。
後援会からは各園校の会長、副会長が参加いたしました。

英語スピーチの功罪

寿司やピラフ、パスタ、フルーツ等のオードブルが所狭しと並べられた談話室に、ポストンからのお客様が現れ、と盛大な拍手が巻き起こり、パーティが始まりました。
司会役の幼稚園、岩崎会長が英語で開会を告げ、スピーチは英語だけでなく、話さないから英語で話さないと下されいと言うと、会場の雰囲気はいっきに和らぎ、ポストンからのお客様もリラックスされた様子。
実のところ、岩崎会長は以前、このウェルカムパーティで英語のスピーチをした際、あとの歌談の場になってポストンの方々がこの人は英語がしゃべれるんだ!と思ひ込み、岩崎会長の周りに群がっていき、閉口した苦い思い出を持っており、今回はこの経験を生かしたスピーチとなった次第である。

今年も発表会に合わせて、ポストンからお客様がいっぱいいらっしゃいました。ガーランド理事長ご夫妻、ファンテジヤ校長、親の会(後援会に相当)からマレーさん、今年度ホームステイで受け入れして下さいましたディキヤストロさん、ポストン東スクール職員の方のケリーさんとダウニーさんと鈴木先生の8名が今回のお客様です。

岩崎会長と小学校の高橋会長は昨年の4月にポストンの発表会に行かれており、現在、後援会の中では一番のポストン通である。
後援会を代表して、高橋会長から、歓迎のご挨拶があり、「ポストンの発表会も素晴らしいですが、日本の発表会にはまた違った素晴らしいところがあります。どうぞ、明日の発表会を楽しんで下さい。」と結びました。

自己紹介は英語で!

このあと、高等専修学校の田中会長から始めて、中学校、小学校という順番で会長、副会長の簡単な自己紹介がありました。
会長達は、学園から名前だけでも是非、英語でお願いしますと言われたので自己紹介でしたが、豪胆さゆえにはたまた意外と小心なのか、周りの「英語、英語」という声も無視するようにしっかり日本語で自己紹介をされる会長が多く、名前だけ姓名を逆にしたり、幾分英語風発音にしたりと各人各様、会長たちの素顔が覗ける楽しい自己紹介でした。
女性の副会長からの自己紹介は、女性もリラックスされた様子で、特に幼稚園の萩山さんと前田さんは二人ひと組の自己紹介で、息の合った素晴らしいスピーチを披露し、会場の全員から拍手喝采を浴びておりました。
京都で舞妓さんに
全員の自己紹介終了後、田中会長が音頭をとり、ワインで乾杯をして、立食で食事をとりながらの歌談

BOSTON→TOKYO

編集委員会から (編集後記)

初めての編集後記

いよいよ、99年度最後の発行となりました。今回は後援会の皆様へ、この紙面をかりて私達編集委員会からも熱いメッセージを贈りたいと思います。
読者の中には「記事が足りなくて、埋めるんだろうなあ」と思っている方もいらっしゃると思いますが、1号、2号と編集後記を書くこともなく、裏方に徹しておりましたので、この「連合後援会だより」は誰が作っているのだらう、編集委員会っていつ選ばれるんだらうという疑問にもお答えしたいと思っておりますので、どうぞ是非、このページもお読み下さい。
謎の編集委員会
私たち編集委員は5月の新第1号の発行準備のために、1年前の3月に発足し、かき集められた者たちですが、正体を言いますと、私、「変更首長」ことオオタは小学校後援会副会長。
他に編集スタッフが8名おりますが、幼・小・中・高から2名ずつ生け賢として首長に差し出されたお母様方です。みなさん5役をされておられます。
つまり、現在の編集スタッフは公募されたわけでもなく、「連合後援会だより」の発行という新しい後援会活動を、その場にいる役員でまかなっていかうという発想から集められた素人集団というわけです。
正直にいいますと、首長は学生時代に新聞部に所属しておりましたので、新しい「後援会だより」ができたことを主張しようということで、レイアウトには拘らざるにラフな「連合後援会だより」を発行いたしました。
各園校の会長紹介にあたっては星座や似顔絵を入れて、身近なおじさんであることを強調しました。威厳がないと言えはそれまでですが、あれが現在の会長達の姿勢で



スクラップアンドビルド

5月の新第1号の発行では各園校の会長・副会長も編集委員に加わって、「これから新しく作るんだから思い切って、これまでと全然、違うものを出そうよ」という方針がきまりました。
憶えておられますか? 昨年度までの「連合後援会だより」は縦書きのB4版で、記事には必要事項の報告の他に各園校の後援会長が持ち回りで、季節のご挨拶をしておりました。これも趣があり、「濃厚さ」は「連合後援会だより」にマッチしておりました。ただ、現役員たちはもっと身近な存在でありたいという気持ちが強かったので、第1号では後援会の皆さんと会長達との距離を詰めること、縦書きを横書きにすることで、全く新しい「後援会だより」ができたことを主張しようということで、レイアウトには拘らざるにラフな「連合後援会だより」を発行いたしました。
各園校の会長紹介にあたっては星座や似顔絵を入れて、身近なおじさんであることを強調しました。威厳がないと言えはそれまでですが、あれが現在の会長達の姿勢で

なんと3号発行まで滞りつづけたが、皆様如何でしたでしょうか? 昨年度まで、学園に発行をお願いしていた「連合後援会だより」を私たちの手に移して1年間、新しい視点で紙面を作っていました。
今回は、編集後記として私たちの1年間を振り返ってみました。

したので、好き嫌いは別にして、その時の会長たちの素顔を描くことができたのではないかと感じております。

報道のちから
第2号の編集会議では、「学園祭には後援会の全員に参加協力をお願いしたいね」と編集方針がきまり、これまで学園祭終了後に収益と寄付の報告を兼ねて発行していた「連合後援会だより」を学園祭の準備がピークとなる前の10月中旬にしようということがきまり、テーマは「ゴミの減量」にしました。
中学校で子供たちがはじめたがゴミの減量は親たちが準備している学園祭運営面からみるとわずらわしいことも多く、ともすると「ゴミの減量」に逆行する楽な方向に流れがちなきを牽制する企画になりました。
実際、この企画が幼・小・中・高へ流れると、自分たちだけ何もしない訳にはいかないという空気が育ち、学園全体でのテーマとして高まったように感じているのは首長だけでしょうか?(かならずおぼれてますが) 来たれ! 新人編集スタッフ
5役でも、幼・小・中・高と縦の活動の場はなかなかありません。
私たち編集委員はこの活動を通してまた素晴らしい仲間と知り合えました。この楽しさを皆さんとも分かち合いたいと思っております。編集に興味ある方がおりましたら是非お手伝いしてください。待ってます!

編集委員会(編集スタッフ)

- 戸田 富子(高等専修学校)
- 川崎 敬子(高等専修学校)
- 安島美代子(中学校)
- 東 早苗(中学校)
- 成澤多恵子(小学校)
- 池山美奈子(小学校)
- 前田 早苗(幼稚園)
- 高橋かおり(幼稚園)
- 編集長 太田 秀昭